

# 上級日本語学習者対象の「会話」授業におけるCLIL導入の可能性 —大学院の教壇実習から—

稲田直子（東京学芸大学教育学研究科修士）・齋藤ひろみ（東京学芸大学）  
共同研究者：ハン・マカラー（東京学芸大学教育学研究科修士）

## 1. 理論的背景

CLIL (Content and Language Integrated Learning)  
「言語教育と他教科などの内容教育とを統合した形で行う教育方法の総称」(和泉 2016:72 太字は発表者)

- 4C (図1) の統合により教育の質を高める
- Focus on Form (FonF) への注目  
意味内容・言語形式・言語機能

**期待される効果**  
対象者のレベル・授業目的・コースの時間的条件により実施において多様性あり

図1 CLILの4C (和泉 2016:75より)

## 2. 研究方法

**収集するデータ**  
留学生によるコメント・成果物の分析  
授業時の観察  
大学院生のレポートの分析

CLILプラン実施

大学院授業「実践論演習」  
なくそう！フードロス  
臓器提供の意思表示をしていますか  
悪質な客—自身と他者の立場から

留学生対象授業「口頭コミュニケーション」(会話)  
教育観の問い直し

\* 学習者に関する情報が無い状態での実践

図2 実践の場

## 3. 研究の目的

- 「会話」授業におけるCLIL導入の可能性の検討
- 教授者の自己の言語教育観の問い直しの有無

## 4. 指導の構成

### CLILの実践理論

1) 4C	内容 フードロス 思考 標語作り 解決策発案	言語 標語 キーワードの使用 協学 話し合い活動
2) FonF	キーワードの提示・標語の形式	

### 大学院の授業で求められた要素

- 3) テーマを社会的課題とすること  
「フードロス」という社会問題の解決
- 4) 視覚的資料の活用  
動画での情報提供

## 6. 考察1 (CLIL導入の可能性)

### 留学生のコメントより

**活動について**  
「標語作りがおもしろかった」  
「みんなの意見を聞いて勉強になった」

**テーマについて**  
「一回は考えるべき問題について改めて考えられた」  
「座って聞いただけでなく、仲間と話し合ったりタスクを実施できた。授業を通して、自分の考え方も鍛えた」

### 学習の成果

- 自己の行動を振り返る
- 社会の問題を当事者として考える

### 設計・実施にあたっての重要な要点

- 内容に対する知識 多角的解釈
  - 学習者にふさわしいタスク設定
  - FonFの選択・方法・タイミング
- 教師の力量 (言語能力・実施時のスキャフォールディング)

### 本実践の工夫

- 「内容」の適切さ**
- 全員に共通する経験
  - 身近で個人でも対策が可能な社会問題
- タスクの工夫**
- 標語作りという新しい経験
  - 身近な経験を中心に話し合う
  - 例示の工夫

### 課題

- 提示したキーワードが易しすぎた
- 思考を深めるヒントの準備不足

教授者が学習者に関する情報を持っていないことによる限界

## 5. 学習者の参加の状況

授業展開
導入
①フードロスとは何か問いかける
②例を挙げ、フードロス経験を振り返る
③目標提示 (語彙メモのための用紙配付)
展開
④映像資料の視聴
⑤映像資料からわかったことを話し合う
⑥クラス全体で確認
⑦確認のためもう一度映像を視聴
⑧自分たちのフードロス体験をグループで伝え合う
⑨数人を指名し、自分の経験/メンバーの話を紹介
⑩経験をもとに、フードロス対策を考え、話し合う (話し合い時に使用するキーワード/表現の提示)
⑪⑩で出たアイデアの全体で共有
⑫標語に使える言葉 (メモ) を振り返る
まとめ
⑬標語づくりをすると伝え、標語について説明
⑭標語づくり (グループ作業)
⑮グループごとに標語を1つ発表し、クラスでベスト標語を決定

**タスク①自身の残食経験について紹介し合う**  
「冷蔵庫が壊れて入れていた肉を大量に処分したことがある」「コンビニで買ったコラボ商品を捨てた」

**タスク②経験をもとにフードロス対策を話し合う**

**タスク③社会に伝えたいメッセージを五七五の標語にする**

- たべものはのこさずたべてしあわせに
- お買い得 抑えて減らす フードロス
- おこづかい かったが捨てた むだづかい
- 買おうかな 買ってみたら フードロス

## 7. 考察2 (教授者の言語教育観の問い直し)

### 大学院生のレポートより

- 学習者への指示モデル提示** 「話し合いを指示したが、話し合う内容が明確ではなかった」  
「自由度が高い授業でもモデル提供が必要」
- 準備・計画の不備** 「どの時点で補足や具体性が必要になるかを考慮に入れなかった」
- トピック学習項目** 「異文化理解のチャンスがあったが、個人的な経験の話し合いに終始してしまった」  
「提示した日本語表現が簡単すぎた」

### 言語教師の役割に関する気付き (問い直し)

- リソースなどについての**教師自身の認識**も授業の目的を変える要素になりえる
- 何を素材に授業をするか、タスクとして何を扱うのか**という点が、**CLILでも最も重要な要素**である
- 学習者の立場から**活動内容や指示のわかりやすさについて想像する必要がある
- 教師が情報提供や活動に**さまざまな要素を取り入れることができる**ということを踏まえれば内容充実につながる